

# 會 告

## 第三回講演大會講演者募集之件

別項會告の通り來る昭和四年東京市に開催せらる可き萬國工學大會に對する豫備講演大會を工學會所屬十二學會、協會聯合の下に本年秋季、帝都に於て開催せらるゝ事と相成候に就ては本會に於ては之を第三回講演大會として可成多數の講演者の出演を得以て本會の面目を發揮致度候間講演御希望の方は來る六月中に奮て御申込相成度此段謹告候也

昭和貳年四月 日 社 團 日 本 鐵 鋼 協 會  
法 人

追て講演原稿は到着の順序に依り前刷に附し可申候間可成早目に(遅くも七月に)當方へ御回送被成下度尙ほ大會出席者一同へ講演大要録配布致度候に付き講演大要(約一千語以内)をも同時に御送附被成下度候尙ほ已に講演申込濟の芳名及演題概要下記の通りに有之候

### 東京帝國大學工學部金屬工學科

- 1) 鉄—炭素—クロム合金の組織に就て  
東北帝國大學教授 理學博士 村上武次郎君
  - 2) 滿俺鋼の靱さ  
東北帝國大學教授 工學博士 濱住松二郎君
- 吳 海 軍 工 廠**
- 3) 鍊鐵の衝擊抗力に就て 海軍造兵大佐 工學博士 吉川晴十君
  - 4) 各種鋼材の高溫度に於ける機械的性質  
海軍造兵大尉 工學士 佐々川清君
- 株式會社大同電氣製鋼所**
- 5) 等位面系の幾何量 常務取締役 工學士 川崎舍恒三君
- 八 幡 製 鐵 所**
- 6) 製銑作業に關する事(題未確定)  
八幡製鐵所銑鐵部長 工學士 鷗瀨新五君
  - 7) 製鋼作業に關する事(題未確定)  
八幡製鐵所製鋼部長 工學士 久保田省三君
  - 8) 鋼片鋼材壓延作業に關する事(題未確定)  
八幡製鐵所 岡崎泰助君
  - 9) 骸炭製造に關する事(題未確定)  
八幡製鐵所化工部長 工學士 黒田泰造君
  - 10) 製鋼用鑄型に關する事(題未確定)  
八幡製鐵所 森寺一雄君
  - 11) 硅素鋼板の製造に關する事(題未確定)  
八幡製鐵所 技師 平世將一君
- 陸軍科學研究所**
- 12) 各種耐鑄鋼の研究 陸軍砲兵大佐 工學士 川上義弘君
- 九州帝國大學工學部冶金教室**
- 13) 鑄鐵に及ぼす溶解溫度の影響  
九州帝國大學助教授 工學士 谷村熙君
- 以 上

# 會 告

來る昭和四年を期し工學會所屬十二學會聯合の下に萬國工學大會を帝都東京市に開催せらるる事と相成已に政府當局の了解の下に夫々準備進行中に有之本年秋季を以て各學會聯合の豫備大會も東京市に於て開催せらるる豫定に御座候而して右に要する經費總額約參拾萬圓は政府に於ても相當の援助を與へらるる外一般有志の寄附及十二學會の負擔に有之本會對する割付額は金九百圓に有之候處本會に於ては近來會誌の改良、講演見學大會の開催等事業の發展と共に經費多端の際に有之候間右本會負擔額は會員有志の寄附に仰ぐ事に去る十二月十五日開催の本會評議員會に於て決議相成候に付何卒多少に不拘應分の御寄附相願度此段謹告候也

昭和二年一月

## 社團 日本鐵鋼協會 法人

追て已に寄附を申込まれたる芳名下記の通りに有之候(○印ハ領收濟ヲ示ス)

- |          |        |          |         |
|----------|--------|----------|---------|
| ○一金五拾圓也  | 鹽田泰介君  | 一金貳拾五圓也  | 俵國一君    |
| ○一金貳拾五圓也 | 河村驍君   | ○一金貳拾五圓也 | 渡邊三郎君   |
| ○一金貳拾五圓也 | 香村小録君  | ○一金貳拾五圓也 | 種子田右八郎君 |
| ○一金拾圓也   | 桂辨三君   | 一金拾圓也    | 向井哲吉君   |
| ○一金拾圓也   | 日向庄作君  | ○一金五圓也   | 川上義弘君   |
| ○一金五圓也   | 杉村伊兵衛君 | ○一金參圓也   | 室井嘉治馬君  |